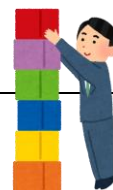


よりよく生きる

ゴールデンウィークが終了しました。来週から、5日間登校が続いていきます。道徳の授業も、本格的に教材を使った学習が始まります。生徒の皆さん、道徳の授業では、たくさんの意見を出し合い、自己の考えを深めていきましょう!!!

今回は、坂村真民さんの詩を紹介いたします。



「つみかさね」 坂村真民

一球一球のつみかさね 一打一打のつみかさね

一歩一歩のつみかさね 一坐一坐のつみかさね

一作一作のつみかさね 一念一念のつみかさね

つみかさねの上に 咲く花

つみかさねの果てに 熟する実

それは美しく尊く 真の光を放つ



この詩は、4組教室の背面黒板に掲示しています。自分の生き方を考え、人生を切り開いていくための指針になるような、とてもよい詩だと思います。

イベルメクチンの開発で、ノーベル賞を受賞された北里大学名誉教授大村智博士は、講演中に「積み重ね、積み重ねても、また積み重ね」という言葉を紹介しています。積み重ねても積み重ねても、まだまだと思う。積み重ねの努力と研鑽の中で、人は心を磨くことができるのかもしれませんが。

また、一球一球のつみかさね、というと、イチロー選手や大谷選手を思い浮かべます。イチロー選手は、高校の寮にいた3年間、毎日寝る前に10分間必ず素振りをしていたそうです。それが10分を越え、1時間、2時間になることもあったそうです。3年間、毎日欠かさず積み重ねたという点が、とても偉大なことです。これが一流の選手の土台になっていると考えると、やはり積み重ねは大切なんだと感じます。

自分の人生を生き切る中で、全力投球して自己研鑽する努力の積み重ねはとても大切だと思います。与えられた場所の選り好みをするのではなく、与えられた場所に心血を注ぎ、好きになりきることが、結果として納得のある人生を生き切ることに繋がっていくのかもしれませんが。よりよく生きるために、積み重ねを大切にしていきたいものです。